



宇宙暗黒物質探索のための 高速中性子によるシンチレーション応答測定

<u>浦野雄介</u>, 畑和実^A, 折戸玲子, 黒澤俊介^B, 伏見賢一,

小西哲之^c, Bakr Mahmoud^c, 向井啓祐^c

徳島大理工,東北大RCNS^A,東北大NICHe^B,京大エネルギー理工学研究所^C

目次
◆単色中性子照射
◆PSD測定, TOF測定
◆Quenching factorの算出
◆まとめと展望

WIMPs 直接探索と消光因子



消光因子 QF の理論値

Lindhard によるモデル研究

$$QF(E_{nr}) = \frac{kg(\varepsilon)}{1 + kg(\varepsilon)} \qquad \begin{array}{l} \varepsilon = 11.5 \ E_{nr}[keV] \ Z^{-7/3} \\ k = 0.133 \ Z^{2/3} \ A^{-1/2} \\ g(\varepsilon) = 3 \ \varepsilon^{0.15} + 0.7 \ \varepsilon^{0.6} + \varepsilon \end{array} \qquad \begin{array}{l} QF_{Na}(100 \ keV_{nr}) \sim 0.57 \\ QF_{I}(100 \ keV_{nr}) \sim 0.29 \end{array}$$

J. Lindhard et al., Mat. Fys. Medd Dan. Vid. Selsk. 33(10) (1963)

浦野 雄介

DICULON

3



NaI(TI) の消光因子 QF

WIMPs 探索に必要とされる低エネルギー側まで精度よく測定

エネルギー依存性が確認



中性子源 (京都大学エネルギー理工学研究所)





小型D-D核融合中性子源

 $D + D \rightarrow {}^{3}He (0.82 \text{ MeV}) + n (2.45 \text{ MeV})$

直径 40 cm の球形

中心に直径 8 cm のカソード (陰極)

周りに冷却用の水 (厚さ5 cm)

K. Yoshikawa et al., Journal of Plasma and Fusion Research 83(10) (2007) 795

電圧値により強度変化が可能

ゼロエミッションエネルギー研究拠点の協力 (ZE2020-C08)

実験日:2020/11/10-12

浦野 雄介



中性子散乱角と原子核反跳エネルギーの関係

$$E_{nr} = E_{n} \cdot \left\{ 1 - \left(\frac{m_{n} \cos \theta_{L} + \sqrt{m_{N}^{2} - m_{n}^{2} \sin^{2} \theta_{L}}}{m_{n} + m_{N}} \right)^{2} \right\}$$

$$E_{nr} : 原子核反跳エネルギー \qquad m_{n} : 中性子の質量$$

$$E_{n} : 入射中性子エネルギー \qquad m_{N} : 反跳核種の質量$$





6

単色中性子照射実験セットアップ

中性子エネルギー: 2.45 MeV (DD核融合反応)

ビームレート: I×107 n/s

NaI(TI)シンチレータ: PICOLON作製 + 浜松ホトニクス製 H11284-100 (PMT) 液体シンチレータ(LS): EJ-301 (ELJEN) + 浜松ホトニクス製 R6091 (PMT) NaI(TI) - LS 間距離: 50 cm (TOF 識別)





PICULON



NaI(TI)の PSD 測定方法と結果

<u>光子の平均到着時間分布の違いから波形弁別 (PSD)</u>

$$< t > = \frac{\sum_{i=0}^{2047} t_i a_i}{\sum_{i=0}^{2047} a_i} \qquad \begin{array}{c} a_i : \text{Voltage [mV]} & \mbox{ n-180 ns} \\ t_i : \text{Time [ns]} & \mbox{ t-230 ns} \end{array}$$



放射化による¹²⁸Iの 特性 X 線 (31.8 keV)

浦野 雄介

PICULON

9

LS の PSD 測定方法と結果

信号の減衰時間の違いを利用して波形弁別 (PSD)

シンチレーション光を以下のように設定

slow:遅い成分を表す発光時間 30~350 ns における発光量 total:0~350 ns における全発光量

slow/total の値で中性子と γ 線イベントを弁別



TOF 測定



エネルギースペクトル





消光因子の結果と他グループとの比較



2021/11/26 第2回地下宇宙若手研究会



来月予定の実験



◆ 測定点を増やす(30,45,60度 + 25,37.5,52.5度)
 ◆ 散乱中性子・BGγ線を減らす(パラフィンと鉛を追加)
 ◆ 測定時間をのばす

2021/11/26 第2回地下宇宙若手研究会



予想されるエネルギースペクトル





まとめと今後の展望

- ◆ 宇宙暗黒物質探索用 NaI (TI) シンチレータの QF 測定のための 単色中性子照射実験を行なった
- ◆ 個々に異なる可能性のある消光因子の測定に成功した
- ◆ QF_{Na}のエネルギー依存性について、より多くのデータポイントで測定を検討
- ◆ QF_{Ng}の TI 濃度依存性(結晶の位置依存性)の測定や, QF_Tを測定を検討

Proceedings of the 35th Workshop on Radiation Detectors and Their Uses に投稿

